『母語干渉 l'**interférence linguistique**』

『母語干渉』とは？何人でも外国語を学習すると、母国語の癖がでるもので、それを母語干渉と言っています。

この母語干渉とは、私たちの脳内で無意識に起こるこの言語バトルのことです。

外国語を話すときには直訳しようとすると起こる現象です。

どの言語の人でも大なり小なりあり、アメリカ人にも、日本人のも母語干渉があります。

日本語の文法構造の影響

1. 語順の違い：

   日本語は基本的に「主語-目的語-動詞（SOV）」の語順

   フランス語は「主語-動詞-目的語（SVO）」の語順

   例えば「私はリンゴを食べる」を直訳的に考えると「Je pomme mange」となってしまいますが、正しくは「Je mange une pomme」です

2. 前置詞の概念の違い：

   日本語の「に」「へ」「を」などの助詞は、フランス語の前置詞（à, de, pour など）と完全に一致しません。

   例：「友達に会う」のに、友達になので、『à』を使いたいことろで「Rencontrer à un ami」は間違いで、「Rencontrer un ami」となります。友達に会う、ここでは目的語です。

   ピエールに連絡をするという場合は、

   誤：*Je contacte à Pierre*

   正：*Je contacte Pierre*

3. 目的語と間接目的語の間違い：

   「友達へ連絡する」だと○○へ、なので、これも『à』を使いたいことろです。

   Je vais contacter à mon ami. (「友達に連絡する」と、Aをついたいところ　　ですが、これは間違いです。

誤：*Je vais rencontrer (contacter) à mon ami.*

正：*Je vais rencontrer (contacter) mon ami.*

日本語から考えると、『○○に連絡をする』『○○に会う』ですが、この『に』の対象は友達で、直接目的語で、*à*はつけません。

「contacter」と「rencontrer」は直接目的語を取る他動詞なので、「à」は必要ありません。

●*Je téléphone à mon ami.* (私は友達に電話します)

●*Je parle à mon professeur.* (私は先生に話します)

動詞ごとに直接目的語を取るか間接目的語を取るかを覚えることが大切です。

4. 主語の省略：

日本語では文脈から明らかな主語はよく省略されますが、フランス語では主語の明示が必須

代名詞の省略：日本語では主語や目的語が文脈から明らかな場合に省略されることが多いですが、フランス語では必要です。

X：Ai vu le film de Pierre Niney

正：J'ai vu le film de Pierre Niney

日本語では今日Pierre Nineyの映画を観たというときに、私を省略しますが、

フランス語では主語は省略されません。

5. 日本語の時間表現：

日本語では「昨日や先日といい、出来事で感謝の対象を省略することが多いです。

フランス語では一般的に感謝の対象を明示する必要があります。

誤：*Merci pour hier* または *Hier, merci beaucoup*（直訳的な表現）

正：*Merci pour votre aide d'hier*（何に対して感謝しているかを明確にする）

「は」の誤訳：

- 日本語の助詞「は」をフランス語で適切に表現できず、*Hier est merci* のような誤った表現になることがあります。

6.日本語の敬語の訳

『今回はこのようにさせていただこうと思います。』などは、訳しようがありません。

日本語の敬語表現をそのままフランス語に置き換えようとする。

誤：*Est-ce que vous pourriez me faire la faveur de m'aider?* (過剰に丁寧)

正：*Pourriez-vous m'aider?*

日本語の丁寧さをフランス語にしようとしないことです。

7.方向の間違い

日本語の助詞をフランス語の前置詞に置き換える、**de**の訳し方

「sortir de」のように起点や出発点を表し「～から」に相当する。

しかし、

「s'approcher de」はへ

誤：*Il s'approche de la fenêtre.*窓から近づく

正：*Il s'approche de la fenêtre.*窓へ近づく

Il s'approche de la fenêtre. (彼は窓に近づく)となり、窓「へ」です。

推論問題

ポールが住んでいるのは、パリの何区ですか？

Paul se lève tôt et prend son petit-déjeuner dans un café près de la tour Eiffel, où il aime observer les touristes. Ensuite, il marche tranquillement le long **du** Quai Jacques Chirac pour rejoindre son ami Jean qui l'attend au musée du quai Branly. Après leur rencontre, ils traversent la Seine par le pont de l'Alm**a** et admirent la vue sur la rive gauche. Paul adore son quartier calme mais central, idéal pour ses promenades quotidiennes.

ポールは早起きして、エッフェル塔近くのカフェで朝食をとり、そこで観光客を眺めるのが好きです。その後、ジャック・シラック河岸に沿ってゆっくり歩き、ケ・ブランリー博物館で待っている友人のジャンに会いに行きます。会った後、二人はアルマ橋を渡ってセーヌ川を越え、左岸の景色を楽しみます。ポールは静かでありながら中心地にある自分の住む地区が大好きで、日々の散歩にぴったりだと思っています。

le long **du** Quai Jacques Chirac のle long **de**は添っての意味です。

この表現は日本人学習者にとって紛らわしい表現の一つで、形容詞「長い」（long/longue）と前置詞句「〜に沿って」（le long de）の違いを理解することが重要です。
日本語では両方とも全く異なる表現になりますが、フランス語では同じ「long」という単語が使われているため混乱しやすいポイントです。

答え

朝起きて近くのカフェで朝食をとる。そこからエッフェル塔が見える。

これで15区か7区のカフェと推測できる。

ジャックシラク道を歩いて、アルマ橋を渡り、そこから左岸を観るとあり、自分の区が住みやすい場所と言っている。

それでポールの居住先は、7区と推論するのが妥当です。

On peut déduire que Paul habite probablement dans le 7ème arrondissement de Paris,

以上です。

Lineには、これから安価で学習できるコースご案内もしていけたらと思います。

その際はメッセージお送りいたします。

パリジャーナル

Sakurako